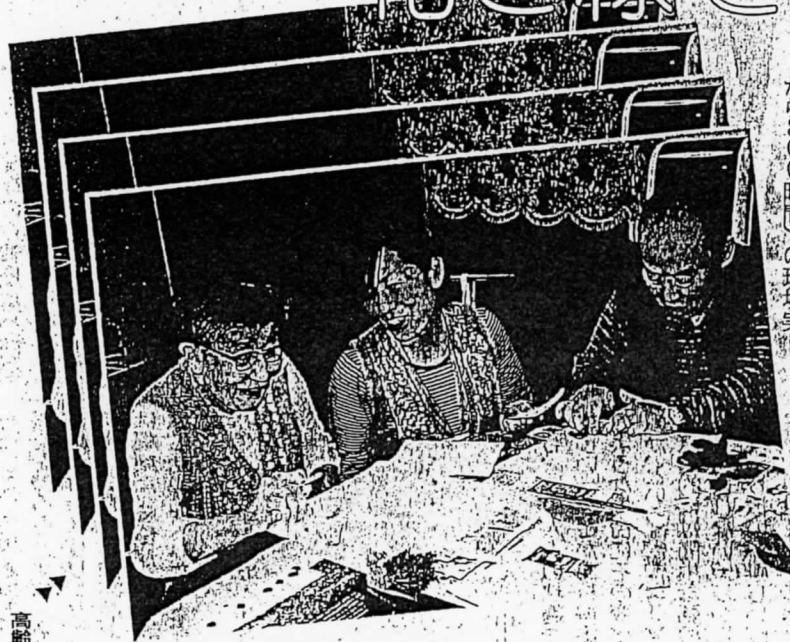


花と緑で心身のケアを

● 高齢者や障害者へ園芸療法士……兵庫県公立校で養成講座

花や緑、園芸作業の心地よさを活用して、高齢者や障害者のストレス軽減や心身機能の回復を目指す園芸療法士の養成講座が兵庫県立淡路景観園芸学校（淡路市）で開かれている。園芸が阪神大震災の被災者の心のケアに効果があったことなどから、米国の制度をモデルに開講した公立校唯一の指導者養成コースだ。

同療法士は民間資格なの習が必修で、2002年以降で私立大などにも独自の養成講座があるが、同校の卒業生は知事認定の「兵庫県園芸療法士」として福祉施設などで活動する。講座は全寮制で1年間で園芸と福祉の両方を学ぶ。授業だけでなく、病院や福祉施設で1000時間（来年度入学から800時間）の現場実



全寮制で 1年間

現場実習が必修

芸療法士を補助するボランティアの養成講座も開いている。

同校園芸療法課程で教える豊田正博兵庫県立大准教授（49）は「座学だけでなく、実体験を伴った経験が必要」と教育方針を語る。趣味のガーデニングではなく療法として園芸を行うには、疾患や身体機能に合った指導や観察の専門知識が必要となる。卒業生で同校職員の上地あさひさん（25）は「寮生活には覚悟が要りますが、楽しいですよ」と振り返る。

今年6月には兵庫県小野市の老人ホームで、植物の葉を使ってエコバッグに色を付けるプログラムが行われた。同校出身の園芸療法士近藤智美さん（34）の指導で、11人のお年寄りが、色とりどりの絵の具を塗った葉を無地の布袋に押し付けて、色とりどりの形を写し取った。季節感を大切にしながら、一つの作品を完成させることで、満足感や達成感を味わってもらったのが狙いだ。

バリアフリー

参加者の疲労を考慮してプログラムは1時間程度。近藤さんは「きれい。大きいのもいいですねえ」などと声を掛けながら、作業を観察。油絵が趣味だったという前田孝子さん（81）は「ますよ」と話している。

高齢者への園芸療法 中央が近藤智美さん 兵庫県小野市の老人ホーム